

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp  
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp  
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

# 地域防災と「多文化共生」

## 〜東日本大震災の経験から〜

菊池哲佳(あきよし) 多文化共生の視点から地域防災について考えると、どのような課題があるのでしょうか。東日本大震災の際、外国人住民の支援に携わった仙台観光国際協会の菊池哲佳さんに、寄稿していただきました。

多文化共生の視点から地域防災について考えると、どのような課題があるのでしょうか。東日本大震災の際、外国人住民の支援に携わった仙台観光国際協会の菊池哲佳さんに、寄稿していただきました。

### 外国人と地域防災

近年、地域には多くの外国人住民が暮らすようになっていいますが、外国人は言葉や文化の違いから災害時に困難を抱えることがあります。例えば、大きな地震が起きた時のことを考えてみましょう。日本語がわからない外国人には、「緊急地震速報」の意味が伝わらないかもしれません。あるいは、防災の知識がないために、どのように身を守ればよいのかわからない外国人人もいます。また、地震の少ない国から来た人はそもそも地震を体験したことがないため、何が起きたのかわからず、パニックに陥る外国人も少なくありません。

### 災害時の外国人の支援

震災では、ほとんどの情報が日本語のため、内容がわからずに困難を抱える外国人被災者の姿がありました。また、どのように行動すればよいのかわからない外国人被災者もいました。そこで、仙台市では外国人被災者を支援するために、「災害多言語支援センター」を設置し、仙台国際交流協会が運営をしました。外国人被災者が必要だとされる情報を英語、中国語、韓国語、「やさしい日本語」に翻訳し、インターネット、ラジオ、

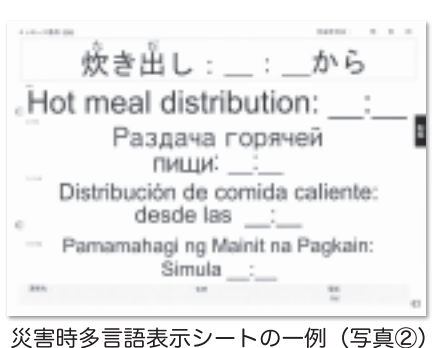
私は2000年に仙台国際交流協会(現在の仙台観光国際協会)に入職し、外国人相談や、外国人児童生徒のサポートのほか、外国人住民との共生の視点から地域防災に取り組んできました。そのような中、2011年3月に東日本大震災が発生し、外国人被災者の支援活動に携わりました。ここでは、それらの経験から、外国人と地域防災というテーマについて、「外国人の支援」、「外国人との共生」という2つの視点から考えてみたいと思います。



東日本大震災での翻訳活動写真①  
災害多言語支援センターでボランティアスタッフが翻訳活動に取り組む様子



外国人住民との防災訓練  
外国人参加者が緊急通報訓練に挑戦!



災害時多言語表示シートの一例(写真②)

ちなみに、「やさしい日本語」とは、外国人にもわかりやすい表現の日本語のことです。例えば、沿岸地域を津波が襲った時、防災無線やラジオで流れた「高台に避難してください」という声の、「高台」、「避難」といった言葉が理解できなかった外国人住民がいました。この場合、「高いところに逃げてください」と「やさしい日本語に言い換えること」で、外国人にももっと伝わりやすくなります。

### 災害時の外国人との共生

震災では、特に外国人被災者が多く集まった避難所で、日本人と外国人の間に誤解や相互不信が生じた場面がありました。例えば、外国人被災者はお互いに顔を合わせて安心したかったのに、一つの避難所に同じ出身国の人たちが集まる傾向があったのですが、その光景に違和感を抱く地域住民もいました。また、避難所でのルールやマナーがわからない人や守らない人は日本人にも外国人にもいたのですが、外国人は目立ちやすいことから、「ルールやマナーを守らないのは外国人ばかり」と思われ、入居しづらい状況が生まれていました。

このような誤解や相互不信が生まれた背景には、日本人住民と外国人住民の日ごろの交流が乏しかったことがあったと考えられます。普段のコミュニケーションの不足が、災害時の溝を生んでしまったといえるでしょう。

### 「多文化共生」の地域づくりに向けて

これらの経験や反省から、日本人住民と外国人住民が日ごろから積極的に交流すること、地域の課題解決で協働することが、災害に強いまちづくりには欠かせないと思っています。



菊池哲佳(きくちあきよし)  
多文化社会コーディネーター・仙台観光国際協会

2000年に仙台国際交流協会(現在の仙台観光国際協会)に入職し、主に防災事業、外国人相談事業に従事し、多文化共生のまちづくりに取り組む。東日本大震災時は仙台市が設置した「災害多言語支援センター」の運営に携わり、外国人被災者の支援を行った。多文化社会専門機構事務局長、文化庁「地域日本語教育アドバイザー」、総務省「情報コーディネーター(仮称)制度に関する検討会」委員等を務める。

## 写真で見る いまむかし 田無駅北口ロータリー

(現田無駅北口駅前交通広場)

旧田無市では、昭和45(1970)年から調査を実施、昭和49年12月に事業決定し、田無駅北口再開発事業を進めました。平成7(1995)年3月10日には再開発ビル(アスタ)がオープンし、その1年後の平成8年3月8日から田無駅北口駅前交通広場の利用が始まりました。



西武新宿線田無駅北口ロータリー  
平成2(1990)年撮影  
西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵



現在の田無駅北口駅前交通広場  
撮影:松嶋 真(田無町在住)